

約4割が「新卒で入社した企業で定年まで働きたい」と回答。「長く働くことで、入社時に育ててくれる企業に貢献したい」の声。目指したい役職1位は「部長」、2位は「主任・係長」／2023年卒アンケート

株式会社学情は、2023年3月卒業（修了）予定の大学生・大学院生を対象に、就職活動に関するインターネットアンケートを実施。今回は、「仕事観（新卒で入社した企業で働きたい年数・目指したい役職）」に関して調査しました。「新卒で入社した企業で、働きたい年数」について、「定年まで働きたい」と回答した学生が38.3%で最多となりました。「長く働くことで経験を積み、会社の役に立ちたい」「新卒で入社した企業で長く働くことで、入社時に育ててくれる企業に貢献することができると思う」など、長く勤めることで、新卒で入社した企業に貢献したいという声が寄せられています。新卒入社から3年以内に30%以上が離職する「3年3割」が社会的な課題となっていますが、新卒で入社した企業で働きたい年数について、「3年未満」と回答した学生は5.6%に留まりました。入社当初から、「3年未満」の勤務を希望する学生は少数なことが分かります。社会人で目指したい役職は、「部長」が最多。次いで、「主任・係長」が続きました。

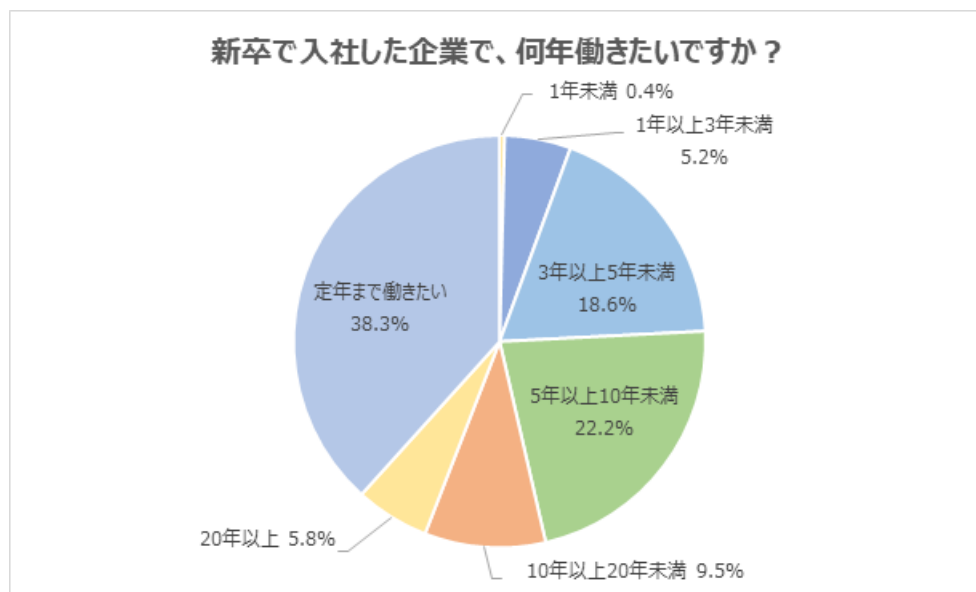
【TOPICS】

- (1) 新卒で入社した企業で「定年まで働きたい」と回答した学生が4割に迫る。「3年未満」の回答は5.6%に留まる
- (2) 「管理職になりたい」と回答した学生は約半数。半数は「管理職になること」を希望していないことが明らかに
- (3) 目指したい役職は「部長」が32.3%で最多。次いで「主任・係長」26.6%
- (4) 社会人として働くなかで、チャンスがあれば挑戦してみたいことは「副業」が最多

【調査の背景】

「新卒入社から3年以内に30%以上が離職すること」や、「若い人は管理職になりたがらないこと」が課題として指摘されるケースがあります。実際のところはどうなのか。就職活動を控える、2023年卒の学生にアンケートを実施しました。

- (1) 新卒で入社した企業で「定年まで働きたい」と回答した学生が4割に迫る。「3年未満」の回答は5.6%に留まる

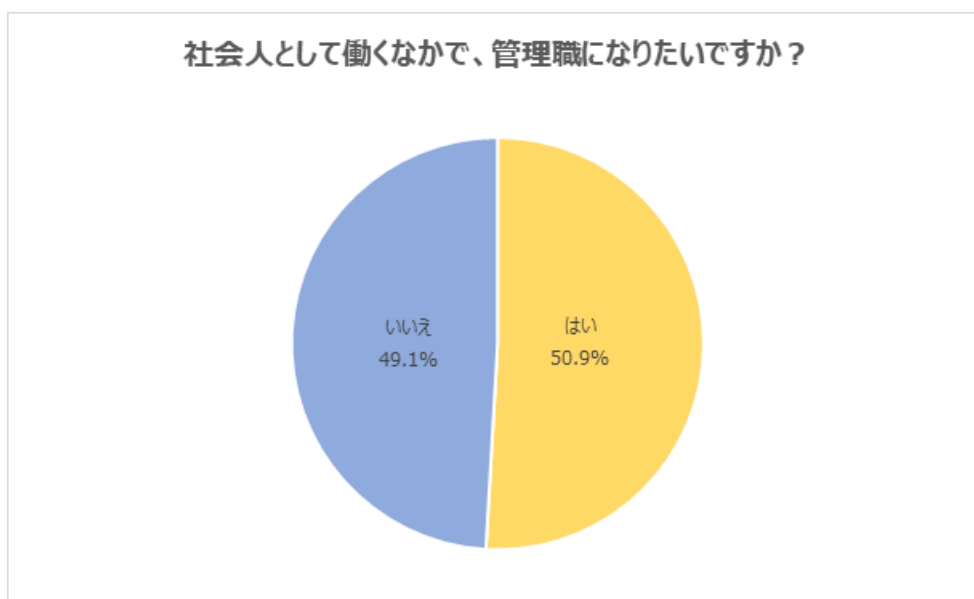


「新卒で入社した企業で働きたい年数」について、「定年まで働きたい」と回答した学生が38.3%で最多と

なりました。「長く働くことで経験を積み、会社の役に立ちたい」「新卒で入社した企業で長く働くことで、入社時に育ててくれる企業に貢献することができると思う」「転職が悪いことだとは思わないが、定年まで働きたいと思えるような企業と出会いたいと思う」など、長く勤めることで、新卒で入社した企業に貢献したいという声が寄せられています。同時に、「日本では、まだまだ新卒採用市場ほど、中途採用市場は活発ではないと思う」「2社・3社転職することが当たり前となる気もするが、キャリア採用は狭き門なイメージがある」といった指摘もありました。

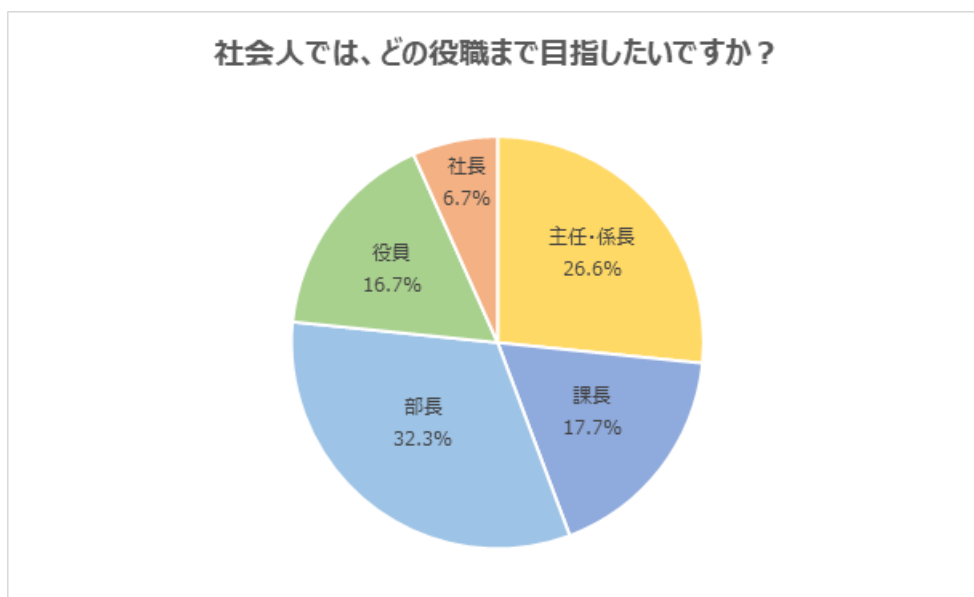
新卒入社から3年以内に30%以上が離職する「3年3割」が社会的な課題となっていますが、新卒で入社した企業で働きたい年数について、「3年未満」と回答した学生は5.6%に留まりました。入社当初から、「3年未満」の勤務を希望する学生は少数なことが分かります。「長く働きたい」という希望を持って入社しているものの、ミスマッチを感じ退職を選ぶ人が多いと推察されます。

(2) 「管理職になりたい」と回答した学生は約半数。半数は「管理職になること」を希望していないことが明らかに



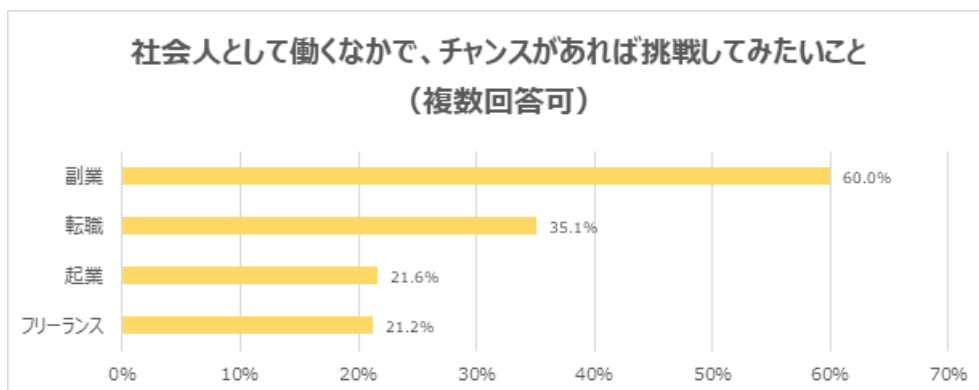
社会人として働くなかで、「管理職になりたい」と回答した学生は50.9%でした。半数の学生は「管理職になりたい」と考えているものの、半数の学生は「管理職になること」を希望していないことが分かります。

(3) 目指したい役職は「部長」が32.3%で最多。次いで「主任・係長」26.6%



社会人で目指したい役職は、「部長」が32.3%で最多。次いで、「主任・係長」26.6%、「課長」17.7%と続きます。「部長」を目指したいと回答した学生からは、「責任のあるポジションにつきたい」「役職が上がることで、視座が高くなり、自身も成長することができると思う」「マネジメントに興味がある」といった声が寄せられました。「主任・係長」と回答した学生からは、「責任のある立場になると、プレッシャーも多そう」「人に指示を出すというイメージが持てない」「プライベートと両立させて働きたい」などの声が上がりました。

(4) 社会人として働くなかで、チャンスがあれば挑戦してみたいことは「副業」が最多



社会人として働くなかで挑戦してみたいことは、「副業」が60.0%で最多でした。「副業」を選択した学生からは、「1つの会社で働き続けられるとも限らないので、稼ぐ手段は複数持っておきたい」「コロナ禍で収入源は複数あったほうが良いと思った」「収入を得る手段が複数あったほうが、ライフステージの変化に合わせて、希望する働き方を選択できると思う」などの声が寄せられました。キャリアを企業に委ねるのではなく、柔軟な働き方や状況に合わせた選択ができるように、選択肢は複数持っておきたいという意向が伺えます。

■調査概要

- ・調査対象：「あさがくナビ 2023 (ダイレクトリクルーティングサイト会員数 No.1)」へのサイト来訪者
- ・調査方法：Web 上でのアンケート
- ・調査期間：2021 年 12 月 6 日～2021 年 12 月 10 日
- ・有効回答数：462 名